

平成29年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立西原小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成29年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成29年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	50人	算数	50人	理科	50人
第5学年	国語	50人	算数	50人	理科	50人

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

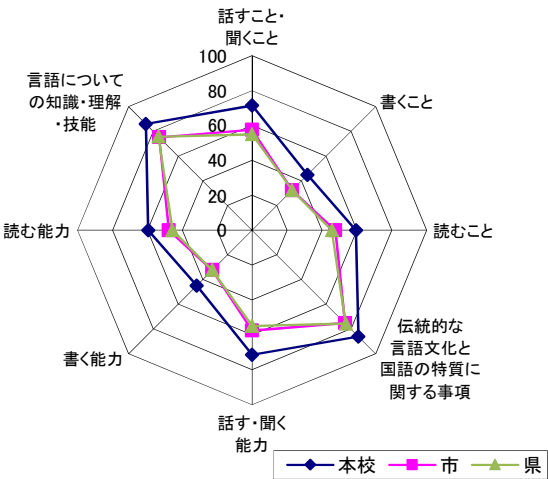
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立西原小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	71.4	57.5	54.9
	書くこと	44.9	32.3	32.3
	読むこと	59.5	47.7	45.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	86.1	75.3	75.8
観点	話す・聞く能力	71.4	57.5	54.9
	書く能力	44.9	32.3	32.3
	読む能力	59.5	47.7	45.7
	言語についての知識・理解・技能	86.1	75.3	75.8



★指導の工夫と改善

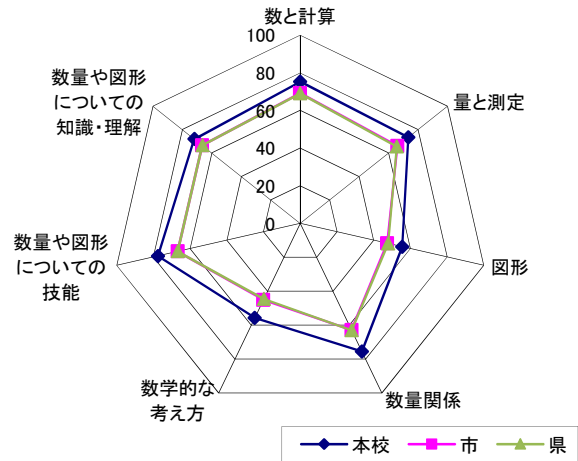
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	宇都宮市・栃木県の平均を10ポイント以上、上回っている。 ○話し合いにおける司会の役割や理由を挙げながら筋道を立てて話すことを選択する問題は、よくできている。 ●話の中心に気を付けて聞き、自分の意見を述べる問題に課題が見られた。	・話し合いを行う際には、友達の意見を自分の考えと比較して聞いたり、友達の意見に対する自分の意見を発表できるように指導していく。 ・自分の意見を発表するときは、根拠や理由を明確にさせ、相手に伝えることができるよう、自分の考えをまとめる時間を十分に取って、丁寧に指導していく。
書くこと	宇都宮市・栃木県の平均を10ポイント以上、上回っている。 ○メモを基にレポートに記述する点が市の平均を上回っている。 ●自分の考えをわかりやすく文章にまとめる力に関しては、課題が見られる。	・各教科で行っている「今日の学び」(振り返り)にまとめる活動の充実を図り、常日頃から自分の考えを書く習慣づけを図っていく。 ・より分かりやすい言葉で、相手意識・目的意識を明確にした文章表現の場面設定を増やしていくことで、書く力の向上を目指していく。
読むこと	宇都宮市・栃木県の平均を10ポイント以上、上回っている。 ○叙述から人物の気持ちを読み取ったり、書かれていることの要点をまとめたりすることに高い理解力を示している。 ●物語文の人物同士の関わりや役割を読み取ること、また説明文の段落と段落とのつながりを理解することに課題が見られる。	・物語文を大きく捉えた上で個々の登場人物の心情に迫っていくような読み取り方を指導し、文章に向き合う基本的な姿勢を身に付けさせていく。 ・説明的な文章の読解においては、段落同士のつながりを接続語の役割に着目させながら、読解を繰り返していく。また、図書室の有効活用をすることで多くの作品に触れる機会を設定していくように努める。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	宇都宮市・栃木県の平均を10ポイント以上、上回っている。また、平均正答率は、他の領域と比べて高い。 ○漢字を読んだり、国語辞典の使い方を選択したりすることはよくできていた。 ●熟語を書いたり、読んだりする問題に対して習熟の差が見られた。また、かぎカッコ(「」)の使い方についての理解に課題が見られた。	・作文を書く際には、原稿用紙の使い方や(「」)会話の記述の仕方など、基本的な内容の定着が図れるよう繰り返し指導していく。 ・既習の漢字や熟語を正しく用いて文章を書くことができるよう国語辞典を用いたり、友達の書いた文を読み合ったりする学習活動を取り入れる。

宇都宮市立西原小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	75.3	69.2	69.1
	量と測定	73.5	66.1	65.6
	図形	55.6	47.4	48.0
	数量関係	75.5	62.9	63.1
観点	数学的な考え方	55.7	45.1	44.6
	数量や図形についての技能	77.6	66.8	66.8
	数量や図形についての知識・理解	71.9	66.6	66.5



★指導の工夫と改善

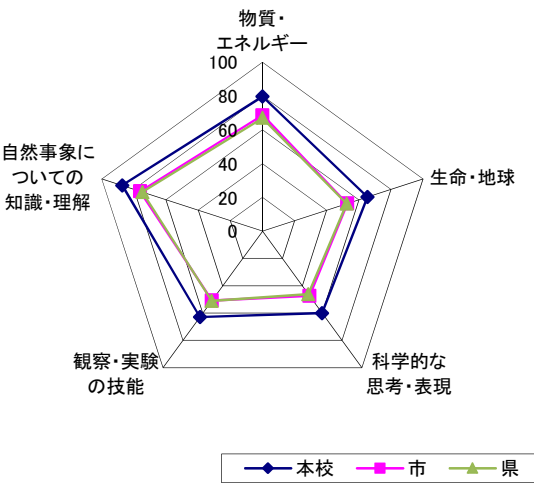
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○ほとんどの設問で平均正答率が8割を超えている。「 $3/4$ の大きさを捉え正しく表された図を選ぶ」問題では、全員が正しい図を選ぶことができている。 ●3位数×2位数＝5位数の計算は市の平均正答率を上回ってはいるが、一部の児童に未定着が見られる。活用問題では、除法のあまりの処理の理由を説明する問題で市の平均正答率を下回る結果が見られた。	・計算問題の正答率が高いが、正誤パターン表を分析すると、全体的に計算問題でのミスが見られるので、見直しや確かめ算を行うことを繰り返し指導していく。 ・自分の考えをより分かり易く相手に伝えることができるようにするために、友だち同士説明し合う活動を設定する。分かり易く説明するためには何が必要か、式、図、などの視覚的な情報とあわせ、言語活動の充実を図る。
量と測定	○「分と秒の単位で表された時間を秒の単位に換算する」問題では、98%が正しく答えることができおり、知識の定着は、良好であるといえる。 ●「算数の教科書1冊のおよその重さを選ぶ」問題では、県、市の平均正答率を下回っており、量感をイメージする力に課題があった。	・量感をイメージする力を育むために、日常生活での様々な場面を想起させたり、体験的学習の場を設定するなど指導方法の工夫改善を図っていく。 ・習得した知識が実生活とつながっていくことを実感させるために、幅広い活用問題を取り入れていく。
図形	○各領域において、市の平均正答率を上回っている。 ●「円を利用してかいた三角形の名前とその理由を答える」問題では、市の平均正答率を上回るも、1割にとどまった。	・図形の性質を確認しながら、作図する活動を多くするなど、実際の活動を通して、図形の特徴に関する理解を深めていく。
数量関係	○棒グラフの目盛りの大きさを読み取る」問題では、平均正答率が9割を超えている。 ●「□を用いた乗法の式に適した場面を選ぶ」問題では、市の平均正答率は上回るも、一部の児童に未定着が見られる。また、活用問題でも、「式が表している意味を読み取り、適した考えを選ぶ」問題で、平均正答率が49%となっている。	・問題の場面をイメージし易くするために、図や数直線を用いながら整理していく活動を多く取り入れていく。 ・他と話し合いながら解決していく場を設定し、学びあいの中で問題を理解していく力を育てていく。

宇都宮市立西原小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	79.7	68.6	66.9
	生命・地球	65.4	52.8	52.4
観点	科学的な思考・表現	60.0	47.4	46.2
	観察・実験の技能	62.9	50.8	51.1
	自然事象についての知識・理解	87.3	76.1	74.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は、県や市の平均正答率を上回っていた。 ○「ものの重さ」「光のせいしつ」の問題では、「自然現象についての知識・理解」の正答率が高く、県や市の平均正答率を大きく上回る問題もあった。実験器具の使い方を何度も確認し、繰り返し実験を行ったことが正答率が高かった要因であると考えられる。 ●「電気の通り道」では、「観察・実験の技能」に課題が見られた。回路のつなぎ方についてはよく理解できていたが、与えられた図からデータを読み取り、考える力が不足していると考えられる。	・今後も実験をする際には、正確に結果を計測するためのポイントや、安全に実験するためのポイントを確認し、繰り返し実験することで実験器具の正しい使い方や実験の方法などの知識の定着を図っていきたい。 ・「電気の通り道」の図や表のデータの読み取りについては、「図の導線がどこについているのか」や「グラフの縦と横の目盛りが何を表しているのか」など読み取るときに重要になるポイントをおさえられるように丁寧に指導していく。また、読み取ったことから問題にあった答えができるように授業の中で繰り返し学習する。
生命・地球	平均正答率は、県や市の平均正答率を上回っている。 ○昆虫の体のつくりや育ちの順序・口と食べ物との関係については、正答率が高かった。また、グラフをもとに昆虫の生息地を考察する問題の正答率も高かった。 ●「昆虫と植物」の虫眼鏡の適切な使い方の正答率が低かった。また、「太陽と地面の様子」では、時間ごとの影の長さのグラフ選択や地面の温度の変化から測った場所を考える問題に課題があった。	・実験や観察を行うときは、見通しや目的意識がもてるように関連のある生活経験や既習事項を想起させたり、考えるヒントとなる素材を与えたりして子どもが考えやすくなるよう工夫して授業を行っていく。また、根拠をもとに考えられるよう、自分の考えを発表するときには、理由も詳しく話せるように指導していく。 ・虫眼鏡など実験や観察器具の取り扱いについては、実際の場面で使用法を丁寧に説明し、機会を設けて誰もが繰り返し経験できるようにしていく。

宇都宮市立西原小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

【学びの基礎力】

○「学校の宿題は、やりたくなる内容だ。」と回答した児童の割合は74%と、市や県の平均に比べて6ポイント以上高い。これは宿題を授業の内容と関連付けたものにしたたり、自主学習の内容を学年ごとに提示したりするなどの日頃の取組みの成果が現れたと考えられる。

●「難しい問題にであうと、よりやる気がする。」と回答した児童の割合は、半数を下回っており市や県の平均に比べても低い。授業の中では友達と学び合い、協働して課題を解決できるように支援しているが、引き続き学習形態を工夫し、達成感もてるよう指導を重ね意欲的に取り組めるよう支援したい。

【社会的実践力】

○「毎日の生活が充実していると感じている。」「人と話すことは楽しい。」と回答した児童は、県平均より5ポイント以上高い。これは、学校全体で「居場所づくり」を進めてきた成果と考えられる。これからも一人一人を大切に、人と関わることの楽しさを実感し、充実した生活を送ることができるよう支援していきたい。

●「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある。」と回答した児童の割合が県・市の平均と比べて低い。授業や朝・帰りの会等で、ニュースで取り上げられていることや、地域の出来事を知らせて、関心をもたせる等工夫していくことが必要である。

【学級力】

○授業で話し合う活動をよく行っており、グループの話し合いに進んで参加している、またクラスの決まりなどを話し合っているという項目の肯定的回答が高い。これは、日頃から様々な場面で「学び合い活動」を行っている成果と思われる。今後も形態等工夫し、引き続き話し合って学習や活動を進めてけるように支援したい。

●「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる。」という項目の肯定的回答が低い。日頃の学び合い活動を生かして友達と解決している児童も多いと思われるので、授業の中で児童の疑問を取り上げていく。また、授業の最後に行う振り返り活動「今日の学び」を生かした家庭学習に取り組ませ、自己解決が難しい問題についてはノートに質問を書くように促したりする等、質問しやすい環境や場の設定等工夫していく。

【家庭学習力】

●「家で、学校の授業の復習をしている。」と回答した児童の割合は3割と低い。宿題をしている児童の割合は96%と高く、学年便りや懇談等の折に家庭学習について啓発をしている成果が出ているが、授業の最後に行っている振り返り活動「今日の学び」を生かして復習をするように促す等、家庭学習の内容について今後も家庭と連携を図りながら指導していくよう努めたい。

【学習方略】

○「分からない国名や地名があったら、インターネットや地図帳などを使って調べている。」と回答した児童の割合は市の平均よりも10ポイント高い。地図帳の使い方を指導し授業中に多く活用している成果であり、今後も継続していきたい。

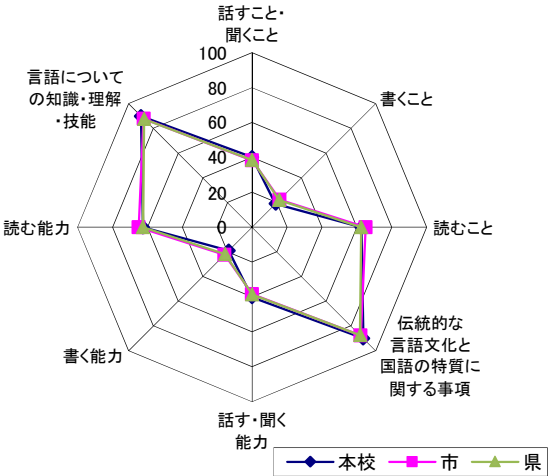
【教科について】

○社会が「好き」「授業の内容がよく分かる」と回答した児童は市や県の平均より高い。体験活動・調べ活動を取り入れ「分かる」授業を展開した成果と考えられる。他教科でも授業内容や方法をさらに改善し、意欲的に取り組み「分かる」授業づくりに努めたい。

宇都宮市立西原小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	40.1	38.3	38.5
	書くこと	19.0	22.3	21.9
	読むこと	62.6	65.0	62.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	90.0	87.8	87.5
観点	話す・聞く能力	40.1	38.3	38.5
	書く能力	19.0	22.3	21.9
	読む能力	62.6	65.0	62.5
	言語についての知識・理解・技能	90.0	87.8	87.5



★指導の工夫と改善

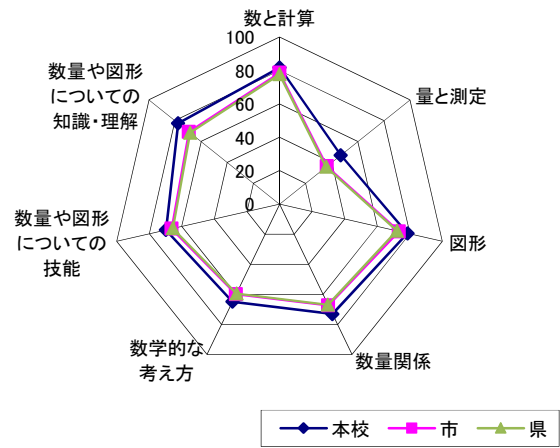
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	「話すこと・聞くこと」は、市と県の正答率を上回っている。 ○考えの共通点や相違点を整理しながら聞くという設問については、他の設問よりもややよい傾向が見られる。各教科の授業で友だちの考えのよい点をノートに記録することを継続的に行っている成果と考えられる。 ●根拠を示しながら、筋道を立てて考えることに対して課題がある。	・国語の授業の話し合い活動や学級活動において意見や理由を述べる時の話し方について、確認したりすぐ参考にできる資料を提示したりしてよい話し方の定着を図る。 ・話し合いについての振り返りでは、「話し合いで決まったこと」と「なぜそれに決まったのか」を一人一人が理解できたかに重点をおいて指導する。
書くこと	「書くこと」の正答率は他の領域と比べて、低い傾向が見られた。 ○文章構成を意識し、内容を工夫してリーフレットを作る設問は、他の設問よりもよい傾向が見られる。 ●メモの内容に新しい情報を加え、リーフレットに入れる設問の回答には課題がある。	・具体的な事実と自分の感想、意見などを区別しながら必要な内容を整理して書くことができるように指導する。 ・ポスターやレポートなどの形式で発表するときには、お互いのよさに目を向けたり、聞き手が話し手の伝えたかったことを文章でまとめたりする活動を取り入れる。
読むこと	「読むこと」については、県とほぼ同じ正答率である。 ○中心となる語や文に注目して小見出しを付ける設問や叙述を基に登場人物の気持ちを想像して読む設問の正答率が高い。 ●文章の要点や細かい点に注意して読み、言葉を引用する設問に対して、課題がある。	・説明的文章を形式段落に分け、段落の内容を読み取り、他の段落とどのように関係しているか考える活動を取り入れる。 ・物語の中でつながりの深い登場人物とのやりとりや出来事を通して、「何が変わったか」「どのように変わったか」「なぜ変わったか」などについて、叙述をもとに考えることができるように指導を工夫する。 ・物語を読むときには、登場人物の関係を捉えて心情や場面の描写を捉えられるように指導する。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」についての平均正答率は、他の領域を比べて高く県や市よりも高い。 ○漢字の読みが定着しており、接続後の役割についての理解が高い。	・漢字の読みや書きを正しく指導し、各教科や日常生活で使う文や文章でも適切に使うことができるように指導する。 ・辞典や辞書を積極的に活用し、国語だけでなく各教科の学習でも使用して、語彙を広げる指導をする。

宇都宮市立西原小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	81.8	78.6	77.7
	量と測定	46.9	36.3	35.7
	図形	78.6	73.3	72.1
	数量関係	73.0	67.4	66.9
観点	数学的な考え方	64.9	59.9	59.4
	数量や図形についての技能	69.7	66.3	65.5
	数量や図形についての知識・理解	77.6	69.4	68.5



★指導の工夫と改善

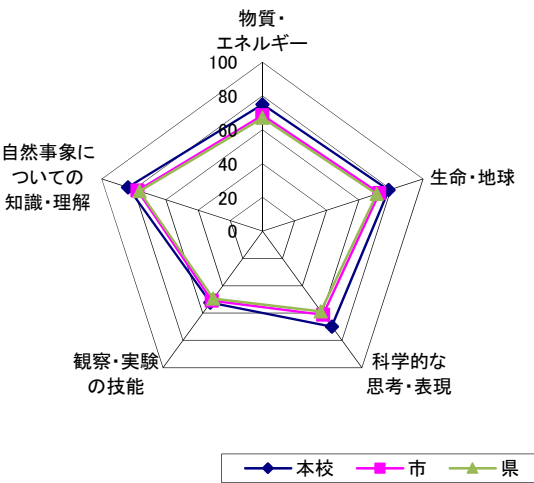
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は他の領域と比べて高い。 ○数を数直線やテープ図に表して、大小を正しくとらえることが得意である。授業の中で、式を図や表に表しながら答えを出す活動を取り入れている成果である。 ●小数点をそろえて足し算や引き算をすることや整数と少数の大小を比べることに課題がある。小数点以下の数の概念の定着が必要。	・今後も数直線や図を用いて立式したり計算の仕方を考えたりする活動を充実させ、今後の「分数と整数のかけ算、わり算」の指導に生かし理解を深める手立てとする。 ・計算の反復練習を行い習熟を図ったり、小数の指導の際には、数直線や図を用いて数の大小が視覚的に捉えられるような工夫をし、概念の定着を図る。
量と測定	平均正答率は、県や市の平均と比べると高いが、他の領域と比べて低く、多くの児童につまづきが見られる。 ●角度や面積を求める方法を説明する問題に誤答や無答が多くみられる。順序立てて考え、それを整理していくことが苦手であると考えられる。	・順序立てた考えを整理するために、言語活動の充実を図る。その手立てとして、図や表を文章に表したり、逆に文章を図や表に表したりする活動を取り入れる。説明する際には、手順に番号を付けたり、矢印などを用いたりする。また、ペア学習やグループ活動を充実させ、説明する機会を意図的に設ける。
図形	○立方体の展開図から向かい合う面を見つけ出すことがよくできた。 ●平行四辺形の作図が苦手である。一部の児童につまづきが見られる。	・作図については、コンパス、分度器、三角定規などの道具の操作方法の定着が必要不可欠であるため、宿題や自主学习などで定着の様子を見とり、必要に応じて個別指導を行う。
数量関係	○表の見方・考え方がよくできている。また、表をもとに立式する力もある。 ● $1000 - (80 \times 2 + 150) = 690$ のように、1つの式に表した考え方を説明する問題が苦手である。式を言葉に、言葉を式に変換する能力に課題がみられる。	・自分が立式したものを使って、その意味を考え、説明する時間を作り、式と言葉を結びつけられて考えられるようにする。

宇都宮市立西原小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	75.0	68.6	67.0
	生命・地球	78.6	72.7	71.1
観点	科学的な思考・表現	69.9	61.2	58.8
	観察・実験の技能	52.4	51.0	49.5
	自然事象についての知識・理解	83.7	77.7	76.6



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は、県や市の平均を上回っている。 ○電気の働きについての設問の平均正答率は、市や県の平均正答率を大きく上回っている。乾電池のつなぎ方や光電池の光の当て方と電気の働きの関係について予想し、話し合いながら学習を深めたことの成果だと思われる。 ●空気の温度変化によってへこんだピンポン玉が元の形に戻る設問で上位層と下位層の平均正答率に差が見られた。 ●水が温まるときの性質についての設問で、湯気と水中から出てくる泡の正体について正答率が市の平均を下回っている。水の温度が変化するときの特徴をとらえることに課題があった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの 今後の指導の重点 ・空気の温度変化によってへこんだピンポン玉が元の形に戻る設問については、未定着であるため該当内容について再度復習をしていく。 ・水の温まり方の授業において、実験結果を正しくグラフに書き表す活動やグラフから法則を読み取る活動を行うことにより、水の温度による変化の特徴を正しくとらえられるようにする。また、他の実験においても文や図を用いて、結果をまとめる活動を重視し、物質の特徴やエネルギーの法則などについて理解できるようにしていく。
生命・地球	平均正答率は、県や市の平均を上回っている。 ○「人の体のつくりと運動」と「季節と生物」についての問題では、市の平均を大きく上回っている。昨年度、季節と生物の学習においてゲーム等で楽しく学んだ経験が学習意欲の向上につながったと考えられる。 ●観察・実験の技能の観点について、市の平均を下回っていた。星や月の観察方法に関して課題があった。 ●「蒸発」という事象の理解に関しては、一部の児童が未定着であり、課題が見られた。	・月と星の授業においては、映像や画像を活用することで実験の場を想定したり、観察の方法のポイントをしっかり指導したりすることで、月や星の動きを理解できるようにする。 ・「蒸発」の学習においては、蒸発の現象についての具体的な事例を示しながら、個別指導をしていく必要がある。

宇都宮市立西原小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

【学びの基礎力】

○「家の人と学習について話をしている」「家の人と将来のことについて話すことがある」の肯定的回答が市や県の割合を10ポイント以上、上回っており、学年だよりを通して各教科の学習内容等を詳しく紹介したり、キャリア教育に系統立てて取り組んだりしている成果が表れたと考えられる。

●「自分にはよいところがあると思う」の項目で、学習が苦手な児童の肯定割合がほかの児童より大きく下がっている。努力を認め励ます学習の展開を続けるとともに、分からないことに対して適切に助言することで、成就感、満足感がもてるような支援を行う。

【社会的実践力】

○地域や社会で起こっている問題やできごとに関心があると答えた児童の割合が市や県よりも高い傾向が見られた。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」と答えた児童の割合が市や県よりも高かった。児童が自分の考えをもち、生き生きと表現できるよう学習活動の工夫をしているが、引き続き多様な考えが導きだせるような単元展開とともに、苦手な児童への支援の在り方を工夫する。

【学級力】

○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。」と回答した児童の割合は89.8%で市や県の割合より10ポイント以上高く、自分の考えを説明したり少人数で話し合ったりする活動を効果的に取り入れた授業づくりの成果が表れたと考えられる。

【家庭学習力】

○「家で学校の宿題をしている」と回答した児童の割合は100%で、家庭学習の奨励と学年共通の宿題の実施など、宿題を家庭でやる習慣が身に付いているといえる。今後も家庭と連携しながら支援していく。

●「家で学校の授業の復習をしている」と回答した児童の割合は61.2%で、市や県の平均よりも低い。本校の振り返り活動「今日の学び」を生かしながら一人一人の児童の実態に合わせて、授業の復習や学んだことを広げるような自主学習の仕方を支援していく。

【学習方略】

○「漢字の読み方や言葉の意味が分からないときは、辞書を使って調べている」が市や県の平均よりも15ポイントも高い。学校全体で辞書を使った学習ができるようなドリルを採用したり、全学級に辞書を配置したりした成果だと考えられる。また、学習が苦手だと答えた児童も辞書を積極的に使う姿が見られる。また、「算数の授業で問題を解くときには、言葉や数、式だけでなく、図、表、グラフなどを使って考えるようにしている」は93%だった。算数の授業で、課題に対して自分の考えを分かりやすく説明する活動を多く取り入れている成果だと考えられる。今後も一人一人の学びを大切にしながら支援していく。

【教科について】

○国語・社会・算数・理科において「授業の内容はよく分かる」と回答した割合が90%以上と、市や県の割合よりも高かった。また、全員が理科の学習が好きだと肯定的に回答している。これからも児童の興味を高め、分かる授業を展開していく。

●国語の学習が好きと肯定的に回答した児童の割合は市や県の平均を下回った。児童が意欲的に取り組めるよう授業の形態や学習方法などを工夫していく。

宇都宮市立西原小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎・基本の確実な定着	西原小「学習の約束」をもとに基本的な学習態度の徹底をすることができるよう全教職員で共通理解を図った。また、朝の学習や家庭学習で漢字練習や計算問題を繰り返し学習するよう支援し、基礎・基本の定着に取り組んできた。	国語・算数・理科についての知識や理解・技能の調査結果を見ると、県平均を上回っている。また、質問紙に関する調査から、授業を集中して受けていると答える児童が県の平均を大きく上回っている。
他者との協同的な学び	言語活動の充実や学び合いの場の設定により、思考力・判断力・表現力の育成を目指した授業の展開を全教職員で共通理解を図って取り組んできた。	質問紙に関する調査から、授業中クラスの友だちとの間で話し合う活動をよく行っていると答える児童が県平均を大きく上回っている。また、グループなどの話し合いに自分から進んで参加していると答える児童も県平均を大きく上回っている。
授業におけるまとめと振り返りの充実	授業の中で本日の課題に対するまとめを板書して全員で確認し、各自が分かったことを振り返り、ノートに記述する時間を設けている。	質問紙に関する調査から、授業で扱うノートには学習の目標とまとめを書いていると答える児童が県平均を大きく上回っている。授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っていると答える児童も、5年生は県平均を大きく上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査で、「書く力」の問題など設問によっては県平均より低いものがいくつかあった。また、一部の児童に未定着の部分が見られた。	復習により定着を図る学習の充実	日常の授業で、自分の考えを書く時間を確保できるよう工夫をしていく。学期末に複数単元の内容をまとめた復習を行う。また、学校全体として少人数指導や個別指導の充実を図り、学習内容の定着を図る。